



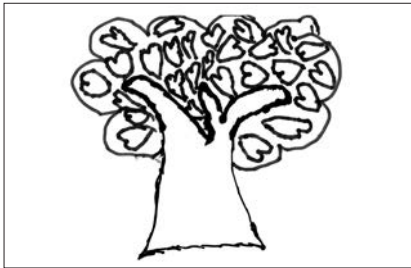
むぎの郷 通信

“麦の郷とは”住民のニーズから
生み出され、住民の手によって育てられる

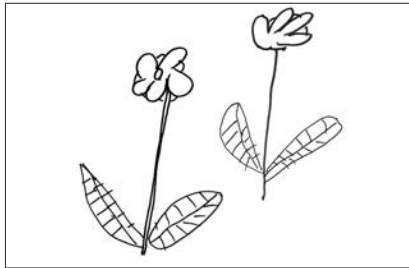
April 2020

ソーシャル ファーム ピネル/くろしお作業所/麦の郷訪問看護ステーション/麦の郷居住福祉事業所/はぐるま共同作業所/はぐるま共同作業所 和の社/はぐるま共同作業所 ラ・テール/麦の郷印刷/障害者就業・生活支援センター つれもて/麦の郷 和歌山生活支援センター/麦の郷紀の川生活支援センター/ハートフルハウス 創/むぎピース/障害児者サポートセンター「麦の郷」/こじか園/第二こじか園/ソーシャルファームもぎたて/Po-zkk/六星舎/叶夢向/創cafe/事務所/麦の郷障害者地域リハビリテーション研究所

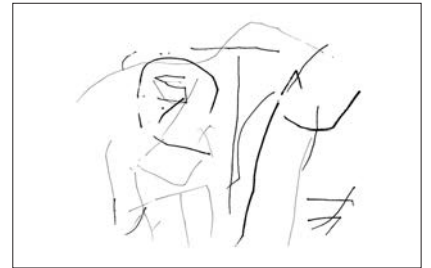
揮毫：伊藤静美 発行/麦の郷情報管理委員会 TEL(073)474-2466 FAX(073)474-4637
〒640-8301 和歌山市岩橋643 http://www.muginosato.jp



くろしお作業所
桑原 宗紀さん



くろしお作業所
宇治 美鈴さん



くろしお作業所
松田 いつみさん



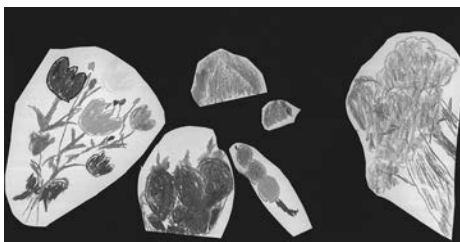
むぎピース
「桜」宇治田 裕子さん



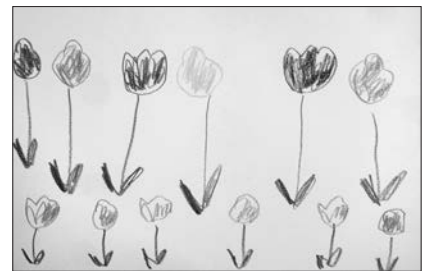
くろしお作業所
花見 4.3(金)



くろしお作業所
増田 繁さん



くろしお作業所
谷本 実岐子さん



むぎピース
「チューリップ」雑賀 沙矢加さん

私たちのめざすもの ~麦の郷4つの理念~

- 1).麦の郷は、日々学び、育み、発信し続ける人材を育成し、地域福祉の発展を目指します。
- 2).私たちは、ものづくりを通じて障害のある人と地域の共存を実現し、互いに豊かになる実践を目指します。
- 3).私たちは、社会的不利の状態におかれている人々の課題を解決するために、広範な人々とつながりを深め、ともに社会変革をめざします。
- 4).麦の郷は、全ての人が平和で安心して暮らせる社会づくりのために人の輪を紡いでいきます。



麦の郷・

韓国江原道福祉アカデミー
日本視察交流会



韓国の社会的企業の幹部や研究者14名が、麦の郷と和歌山高齢者生活協同組合（以下、高齢協）の視察にこられると聞いたのは、1月あたま。当時は、新型コロナウイルスの話は全くでいていなかった。しかし2月上旬には、海外出張にストップがかかり6名となった。参加者や企画者はさぞかしがっかりされたことと思う。

2月12日（水）9時に①地域活動交流拠点「やまぐちささえ愛センター」と介護住宅「やまぐちおたつしゃ館」の見学からスタート。さすが熱心な6名。場面が変われば、矢継ぎ早に質問が飛ぶ。②麦の郷に移動後、レクチャー2本。小長谷介護部長による「日本の高齢者福祉の現状と課題。暮らしへの影響」と、北田地域・福祉部長による「高齢協のコミュニティケ

アのはじまり」。小長谷さんは非常勤で福祉学校の講師をしているので専門的だ。社会福祉6法など日本人が聞いても、ちょっと難しかったりするが、ここでも質問



が途切れない。北田さんは、やまぐちおたつしゃ館の19年度の再生ストーリーと「つながるやまぐち」と題して、住みたい地域に貢献するプログラムを34枚の新作スライドで語った。

午後は、③韓日の実践交流のシンポジウムが開かれ、県の障害福祉課長の更家さん、文部科学省の峰さん、和歌山大学名誉教授の堀内秀雄さんがスタンバイ。平日の昼間であり、参加人数は多くなかったが、有意義にするための、麦の郷の底力を感じた。

最後は、④「高齢協が支える障害者支援の必要性と課題」として、「ワークシヨップとして」の横手所長。

「高齢協の経緯と現在」を私がお話した。ぶつ通しのプログラムにも関わらず、熱心な韓国の皆さんに脱帽。通訳の姜さんの、メリハ

りも素晴らしかった。何よりも質問を受けながら、韓国の地域共生社会づくりの実践から学べることがたくさんあると感じた。僕たちの挑戦の先につまめる姿が見えるかもしれない。そうだ！韓国に行こう。

（和歌山高齢者生活協同組合 内田 嘉高）

ゆめ・やりたいこと実現センター

実践報告フォーラム

「一人にひとつずつ
たいせつないのち」

仕事柄いろんな研究会に参画します。2月11日のフォーラムは特別に心地よい時間でした。イルカさんの歌「まああいのち」が、私の中に流れてきたからです。

詳しくは、センターの研究実践報告書をご覧ください。とりわけ、私が揺さぶられたエピソードの一部を紹介します。①ボズック楽団の演奏に「涙が出てきて、生きていると感じた」、



One Behind

②「最も遠くに取り残されている人々にこそ、第一に手が届く」(Put the last First)

③「社会・環境・経済」の三側面が調和され包摂されている
いま世界は、新型コロナウイルスのパンデミックで、医療崩壊・社会崩壊の危機にあります。こんな時こそ、インクルーシブな思想とSDGsの行動力を共に鍛錬したいものですね。

♪「みんな 同じ 生きていくから 一人にひとつずつ たいせつないのち…」

(ほりうち ひでお)

第41回 和歌山県小児保健協会

研究集会について

令和2年2月1日に和歌山県立医科大学附属病院にて、第41回和歌山県小児保健協会研究集会が行われました。今回は「発達障害児の円滑な支援体制」という企画で保健センターの定期健診のスクリーニングで経過フォローとなった児童が、現在の各種福祉サービスを利用し、就学までできる限りスムーズに支援する体制が構築できることを目的とし、障害児支援施設、リハビリ施設、保健所、病院の各担当がそれぞれの立場で発表するシンポジウムが行われました。最初に記念講演として海南医療福祉センター小

児科の重里先生から「神経発達症（発達障害）を持つ子どもへの支援の在り方」についての講演がありました。そのあと、和歌山市保健所地域保健課の池田発達相談員から「和歌山市の発達相談事業」について、次に愛徳医療福祉センターの小児科の檜皮谷先生が「愛徳医療福祉センターの診察より」和歌山県発達障害者支援センターポラリスの辻さんが「発達障害児の円滑な支援体制」について、そして「こじか園の取り組み」児童発達支援センターの役割と現状について尾崎が話をし、最後に「和歌山県立医科大学附属病院小児科外来の現状」について和歌山県立医科大学の小児科の津田先生より発表がありました。『発見』『受け皿』『医療』『訓練機関』『相談』などそれぞれの立場の現状と課題などが発表されました。まとめとしてそれぞれの機関が連携していくこと、和歌山市の現状を確認し、どこにも行けず溢れている子ども達や保護者支援を考えるには、保育所や幼稚園、子ども園の先生方との連携や障害について理解してもらう研修などの機会を作る必要がある事、地域の保健師の役割の大切さなどを参加したみんなが確認しました。このシンポジウムに参加してこれからも医療機関や、訓練機関、保健所など行政、相談機関との連携を大切にしていきたいと思いました。

（こじか園 尾崎 由加子）



障害のある人と活動することで「私の心が浄化される」。素朴で優しい言葉に「もらい泣き」しました。書道の先生、ありがとうございました。②「誰もが一つにつながっている」と認識し「違いがあっても幸せだと楽しむことが大切です」。県の保健所長のメッセージです。学び合いは教え合い、生涯学習の本質が見事に表現されています。



しかし、障害者の学習権としての生涯学習の保障は、まだまだ緒に就いたばかりです。障害者の権利条約第24条の5「障害者が、差別なしに、かつ、他の者との平等を基礎として、一般的な高等教育、職業訓練、成人教育及び生涯学習を享受することができることを確保する」。

国連のSDGs（持続可能な開発目標）は、①「つづかない」「世界を」「つづく」「世界に」「変革」するための目標であり、②「貧困のない」「持続可能な」「世界をめざした目標のことです。めざす社会の3目標は、次の通りです。①「誰ひとり取り残さない」(Leave No

精神保健福祉ボランティア 養成講座を開催しました



麦の郷和歌山生活支援センターでは、和歌山市からの委託を受け、精神保健福祉ボランティアの事業をおこなっています。この事業は、精神障害のある方やその家族の方々の地域生活をサポートする内容で、各家庭への訪問（話し相手や相談・掃除などの生活支援等）や、団体活動の参加による援助を中心とした活動です。

このような活動に興味を持たれ関心をお持ちの方、すでに登録されている方を対象に、ボランティアの育成と今後の活動の為に講座を今年度は2月19日、25日、3月4日に3回開催しました。

1 回目は、一般社団法人メンタルウエルビーイングパートナーズ理事長の原見美帆氏、地域活動支援センター櫻のピアサポーター堀本久美子氏を講師に「精神障害者への理解について」正しい知識とピアサポーターからのメッセージ」をお話していただきました。

2 回目は、一般社団法人大阪精神保健福祉協会 金文美氏、北海道の就労継続支援B型事業

所こりカ・プロダクション ピアスタッフの丸子慎平氏を講師に「みんなで創る「実践」の形」当事者スタッフのまなざしから」をお話していただきました。

3 回目は、ゆずりはカウンセリングルーム代表 中野正美氏に「傾聴と質問」について、お話ししていただきました。

受講した方からは、難しい内容でしたが勉強になりました。いろんな方に助けてもらった経験があり自分も何か役にたてればと考え受講し、自分にあったお手伝いができたらなあとお話してくれました。実際の当事者の話を身近に聞いたことで、本人、家族が病気とどう向き合ってきたかも少し聞きたいと思った。など前向きな意見が聞けました。今後ボランティア事業の大切さを周知しながら環境を整えていきたいと思えます。

（麦の郷和歌山生活支援センター 南部 恵里）

地域活動支援センター 合同レクリエーション



2月21日（金）市民総合体育館で和歌山生活支援センター、地域活動支援センター櫻、岩出障害児者相談・支援センター、紀の川生活支援センターで合同

スポーツレクを行いました。東京オリンピック・パラリンピックにちなんで、今回はポッチャをしました。ポッチャとは重度脳性麻痺者や四肢重度機能障害者のために考案されたスポーツでパラリンピックの公式種目にもなっています。赤・青6球ずつボールを投げるとなる白いボールにどれだけ近づけられるかを競う競技です。ルールは比較的簡単で、障害の有無にかかわらず誰もが楽しめるスポーツです。

紀の川生活支援センターからは7名の参加で、6チームに分かれて対戦しました。最後の1球まで勝敗が分からない試合展開に、みんなで「えー！そんな勝ち方があるの!」「どの位置から、どれぐらいの強さで投げる?」など、チームごとで話し合いながら、行ったゲームは大盛り上がりでした。紀の川生活支援センターチームは1位にはなれませんでした。みんなで協力し合いながら、楽しくポッチャに取り組みむことができました。今回、ポッチャを初めてしたという人から「テレビのCMで見たことはあったけど、する場所がなかった。意外と簡単で楽しい。」と意見をくれました。

和歌山県では認知度や競技人口が少ないポッ



チャ。みんなで楽しめるスポーツをこれからも提供していきたいと思えます。

（麦の郷紀の川生活支援センター 西 加奈子）

避難訓練

2020年3月

11日(水)に避難訓練をしました。

参加者はメンバーと職員を含めて31名で地震を想定して行いました。

まず3・11はどんな日なのか...2011年東日本大震災が起きた日であることを確認してから全員で1分黙祷を



しました。昼食はお湯を入れると15分、水を入れると60分で食べることが出来るアルファ化米を食べるので、今回は水を入れて待ち時間60分間に地震が起きたとして中央コミュニティセンターまで徒歩、自力歩行が難しいメンバーは車いすで避難をしました。むぎピースで用意をした避難ミニカードを一人一枚持って何時にむぎピースを出発して何時に中央コミュニティセンターに着いたのかを計測して記入。一番早いメンバーだとむぎピースから中央コミュニティセ

ンターまで徒歩5分で行くことが出来ました。全員がむぎピースに戻り、休憩した後に書いた避難ミニカードには「安全な所に逃げる」とへの大切さを知りました。「地震時あわてずゆっくり歩こうと思う」「本場に災害があつて避難できるかわからないができてよかった」などの感想がありました。

その後、アルファ化米を食べましたが、今までの訓練で防災食を食べきれなかったメンバーもこれまでの積み重ねから今回は食べることが出来ました。

今回の避難場所は何度も訓練している場所でしたが、訓練を重ねていくことでまずは自分の身は自分で守れるように危機感を持つて意識していくことが大事です。いつ起こるか分からない地震、津波、南海トラフ地震が今後30年以内に発生する確率は70〜80パーセントと言われてます。いかに命を守るか。防災備品の準備もしながら避難場所の確認など今できることを考えて備えておくことの大事さを感じています。これからも避難場所を変えてみたりしながら避難訓練に取り組んでいければと思います。

（むぎピース 岡本 悠）

むぎ・わくわくレポート12

今まで働いていた事業所が閉所となり、新たに働く場所をいっしょに探していく時に関わった方がいました。見学や実習を行い、本人さんは「ここで働きたい」という思いを持たれたのですが、評価としては「ここで働いていくには難しいのではないかと」のことでした。しかし、本人さんの思いも強く、その事業所で働いていくことになりました。今までは全く違う仕事になるため、1からのスタートです。事業所のスタッフさんとも何度かケース会議を重ね、様子などを伺っていききました。最初はだいぶ苦戦しており、失敗も多く事業所から言われた目標もなかなか達成できませんでした。事業所からの提案で、様子を半日ほど見て後日事業所のスタッフさんと話し合いを行ったこともあり、私たちも作業の流れをしっかりと分かっていかなかったこともあり、本人さんがどういった時にどんな失敗をしてしまうのかなど、見て気付いたことを話し合いました。また、本人さんからもその都度話を伺ったのですが、本人さんは「ここで働きたい」とのことでした。事業所ではスタッフさんと本人さんの振り返りや面談を重ね、自己評価と周囲の評価にズレが生じていないかなど、一緒に話し合っただけで目標を設定してもらおうになりました。結果、障害特性の部分は事業所でも工夫するなど対応して下さるようになり、本人さんも少しずつ自身を客観的に見ていけるようになっていきました。事業所で働くようになって1年が経ち、モニタリングでは「戦力になりつつある。本人さんの成長とともに、スタッフも成長していくことが出来た」との評価。評価を聞き、とても嬉しく感じました。本人さんも「ここで働きたい」という意思を強く持つていたこともあり、周囲も「本人さんが働いていくためにはどうしていくか」というふうな考え方も変わっていききました。相談支援での「本人さんの意思を尊重していく」とこの大切さを改めて学ぶことができたように思います。

（サポートセンター「麦の郷」 矢野 綾加）





今年10月23日(金)・24日(土)に開催を予定していましたが、『第43回きょうされん全国大会in和歌山』は、新型コロナウイルス感染予防のため参加者の命と健康を守る観点から開催中止が決定されました。

昨年10月号・今年1月号にも告知や協賛のお願いの記事を載せていただき、今号には、イベントなどの詳しい内容をお知らせして、「この企画に参加したいな」「このシンポジウムは興味があるな」または、「こんなところのお手伝いがしたいな」と、大会に向けてわくわくドキドキ、それぞれの参加の仕方を思い描いてもらえるような記事を載せていただく予定でした。

また、大会事務局でもテーマソングが出来上がり、ボランティア募集チラシの印刷が仕上がりに、開催要綱の原稿が出そろい、各イベントに向けてさあよいよ具体的な準備にかかろうという矢先でしたが、コロナウィルスの流行が急速に広がり、事務局員や所属の事業所で開催に対する危機感や不安を抱えており、3月末の事務局会議で、コロナウィルスの流行収束の心配が見えず、さらに全国的な広がりを見せる中で、このまま開催に向けて進んでいくのはいいのかを話し合い、きょうされん本部の指示を仰ぐこと

『第43回きょうされん 全国大会 in 和歌山』 開催中止のお知らせ

今年10月23日(金)・24日(土)に開催を予定していましたが、『第43回きょうされん全国大会in和歌山』は、新型コロナウイルス感染予防のため参加者の命と健康を守る観点から開催中止が決定されました。

昨年10月号・今年1月号にも告知や協賛のお願いの記事を載せていただき、今号には、イベントなどの詳しい内容をお知らせして、「この企画に参加したいな」「このシンポジウムは興味があるな」または、「こんなところのお手伝いがしたいな」と、大会に向けてわくわくドキドキ、それぞれの参加の仕方を思い描いてもらえるような記事を載せていただく予定でした。

また、大会事務局でもテーマソングが出来上がり、ボランティア募集チラシの印刷が仕上がりに、開催要綱の原稿が出そろい、各イベントに向けてさあよいよ具体的な準備にかかろうという矢先でしたが、コロナウィルスの流行が急速に広がり、事務局員や所属の事業所で開催に対する危機感や不安を抱えており、3月末の事務局会議で、コロナウィルスの流行収束の心配が見えず、さらに全国的な広がりを見せる中で、このまま開催に向けて進んでいくのはいいのかを話し合い、きょうされん本部の指示を仰ぐこと

話そう！
うたおう！
つなごう！
そして伝えよう、
みんなの願いを！

一笑顔あふれる
街づくりめざしてー

2020年
10月23日(金) - 24日(土)

第43回全国大会
in 和歌山

ボランティア大募集!!

ボランティアの役割
A 案内・誘導
B 会場設営・準備
C 販売
D 受付
E 障害サポート
F 観光(24日のみ)
G 広報
H 弁当配布

23日 9:00~18:00
24日 8:00~17:00

田辺スポーツパーク

ボランティア活動時間

23日 9:00~18:00
24日 8:00~17:00

見目通帳でも
ボランティアさん大歓迎!

主催 きょうされん
後援 和歌山県 田辺市 白浜町
上富田町 紀伊民報社

ご参加の方へ
お弁当支給
(お持ち帰り)

こんな風に
仕上がっていました

きょうされんから 全国の会員への通知 (第43回全国大会in和歌山)

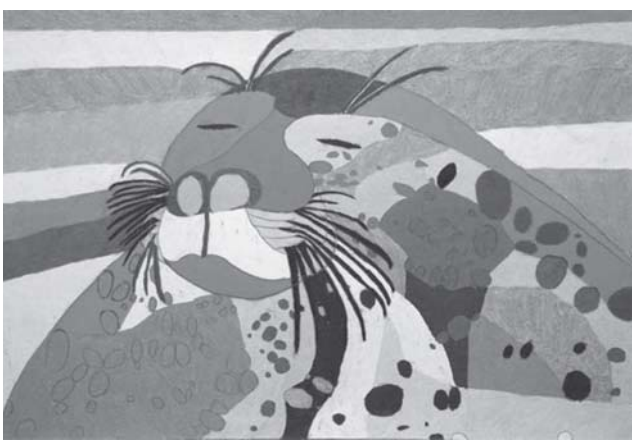
○今回の決定を行なうにあたり理事や支部事務局長への事前アンケートを行なった中で、「大会実施は困難」との意見が、「延期」「規模縮小して実施」等の意見を大きく上回りました。4月2日に開かれた開催地の和歌山支部臨時運営委員会においても開催は難しいとの見解でした。

○こうした意見も踏まえて、大変残念ですが全国大会in和歌山は中止に致します。

○今年度内の延期や規模を縮小しての開催については、感染拡大の収束が見通せない状況があり、現地の意向や、障害のある人々への影響等も勘案すると、これらの選択は適切ではないと判断しました。

○これまで準備に尽力いただいていた和歌山支部の皆さんや、山崎由可里実行委員長(和歌山大学教授)をはじめ実行委員会に参加いただいた多くの団体の皆様には、理事会や総会で正式に中止を決定した上で、あらためて経過報告と感謝の気持ちをきょうされんとしてお伝えすることとします。

○なお、今後の和歌山での大会開催については、あらためて和歌山支部の皆さんの意向もお聴きして、理事会で検討します。



「おしゃれなアザラシさん」
(和歌山生活支援センター 澁田 大輔さん)

入選できてうれしいです。これからもかわいい絵をかきます。《ご家族のコメント》幼い頃から絵を描くのが好きで動物の絵をよく描いています。これからも周りの人が笑顔になるような絵を描いてほしいと思います。

きょうされん

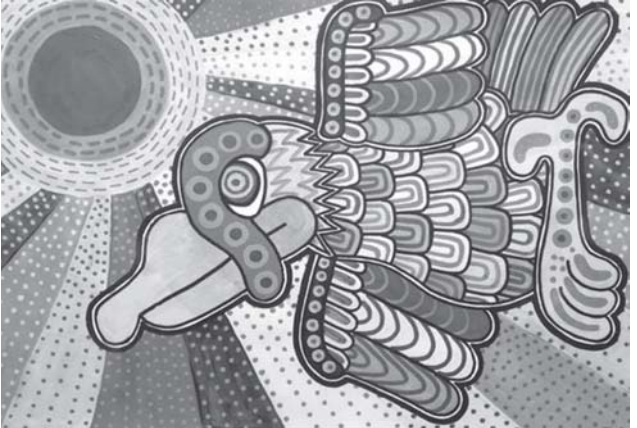
グッズデザイン コンクール

きょうされん
グッズデザインコンクールに
3名のなかまが
入選されました。



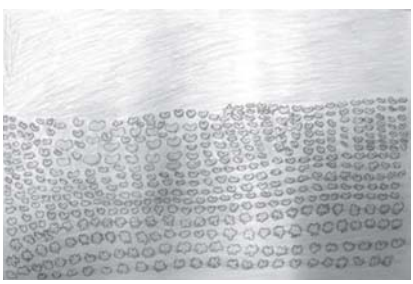
「星と月の夜」
(むぎピース 池宮 弘登さん)

入選ありがとうございます。今回の作品は昔から好きな空、特に星空の絵です。選ばれた事を嬉しく思い、これからも頑張ろうと思いました。



「トリと太陽」
(和歌山生活支援センター 山下 恵理さん)

元気な太陽に負けないくらい元気なトリを描きました。デザインを一生懸命考えて描いたので作品が選ばれてとてもうれしいです。グッズになればいいなと思っています。



「なのはな畑」
(むぎピース 小谷 一夫さん)

作品投稿募集します!

なかまのみなさんの描いたイラストや絵、写真などの作品を麦の郷つうしんに掲載してみませんか? 自薦他薦は問いません! 投稿したい方は、所属する事業所の職員へ伝えてください。投稿してくれた作品は、順番に掲載させていただきます。なかまの皆様の作品をお待ちしています!





授産品売上確保にご協力お願いいたします

地球規模の「不安の種」新型コロナウイルス感染の広がりが止まりません。とうとう日本も「緊急事態宣言」という歴史的な決断を余儀なくされました。初期の段階から地元和歌山県には感染が発覚しその数は徐々に増え続けています。

桜咲く春の週末の様々なイベント催しは軒並み中止となり、日ごろ人々が集う飲食店ではお客様の姿はすっかり消えてしまいました。新型コロナウイルス警戒感からの自粛の空気は私たち作業所の「商品売上」にもとうとう影響を及ぼしてきてしまいました。イベントでの対面販売で春の売り上げを見込んでいた「はぐるま共同作業所」はいち早く落ち込んだ売り上げをカバーしようと法人内での協力販売に着手しています。「和の杜(そよかぜ)」の状況はさらに深刻です。学校給食に提供されていたコロッケやミンチカツなどが供給ストップとなり、さらに週末ごとのコロッケの対面販売も中止とまさに危機的状況です。きょうされんの呼びかけでコロッケの全国通販も開始されましたが平時の売り上げをカバーするにはなかなか至っていません。近く和の杜(そよかぜ)も法人向けに協力販売をお願いする予定となっています。見渡す限りどこも非常事態です。どこも大変です。

協力販売の波がさらに広がっていくことも予測の域ではありますが、無理のない「協力の気持ち」でこの難局を少しでも和らげられればと思うばかりです。
(はぐるま共同作業所 和の杜 大中 一)

助成ありがとうございました

この度、清水基金様より助成をいただき、オンデマンド印刷機を購入させていただきました。

オンデマンド印刷機は、少ロットの印刷に向き、カラー印刷ができるので、これまで外部の印刷業者さんをお願いしていたカラー印刷が事業所内でできるようになり、外注経費と取りなどの手間が省かれ大変助かっています。また、印刷に伴う後加工も事業所内で行うようにし、メンバーの仕事づくりにも役立っています。

導入前は、カラー印刷用として考えていましたが、少ロットのモノクロ印刷にも対応できそうなので、年度末など冊子の印刷が重なる時期にも大変役に立ってくれそうです。

これから、みんなで意見を出し合い様々なことを試しながら、お客様にも新しい提案をし、売り上げ増、メンバーの工賃アップにつなげていきたいと思えます。大変ありがとうございました。

(麦の郷印刷 長谷 理世)



イベント中止のお知らせ

◎障害者・市民の夏まつり

◎西和佐地区・麦の郷夏まつり



くろしお作業所
川崎 愛香

くろしお作業所の川崎愛香(かわさき あいか)です。くろしお作業所に入り4年目を迎えました。くろしお作業所にはエコ班、ひまわり班、たんぼぼ班と3つの班があり、私は現在たんぼぼ班で支援員として、日々仲間と一緒に活動をさせていただいています。くろしお作業所は、年間を通してとても行事が多く、入った当初は仲間のことを知ることによって精一杯で、一つ一つの行事や、一日の活動を送ることでいっぱいでした。日々過ごす中で少しずつではありますがやっとなら仲間達と一緒に楽しみ笑い合えることが増えてきました。くろしお作業所に通う仲間は人生経験豊富な大先輩が大半です。そんな大先輩から教わるのがたくさんあります。生活介護…毎日代わり映えのない一日を送るのではないかとありますが、そんなことは全くありません。毎日笑い声が絶えないくろしおは、とても素敵な場所であり、私にとってかけがえのない居場所となっています。これからもそんな場所を大切にしていきたいと思えます。